

文化・芸術で みんなが笑顔で楽しい暮らしに

舞鶴市文化協会 会長
大阪北京都岳風会北京都地区 師範

やまうち てつお
山内 哲夫 さん



1人ひとりが心豊かに暮らすために文化・芸術などの文化活動が大きな役割を果たす中、舞鶴市文化協会は創立70周年を迎えました。また、舞鶴市文化振興条例が今春に施行されます。今回のまいづる元気人は、同協会の10代目会長として活躍される山内哲夫さんに文化・芸術活動の魅力についてお話を伺いました。

文化協会創立70周年の節目

文化協会での活動は昭和60年に始め、会長としては今年度で7年目を迎えます。現在は104団体加盟。子ども達に文化の良さを伝えることと併せ、誰もが楽しく文化に触れられる活動を行っています。文化活動は取り組みやすいジャンルが多く、皆さんそれぞれ楽しんでおられます。

昨年10月4日、文化協会70周年の節目に「ベイ・ギャラリー2015」すばらしき舞鶴」と題し、総合文化祭開会式と創立70周年記念式典を行いました。田辺城、引き揚げ、海の3部構成で舞鶴の素晴らしさを凝縮したステージが披露されました。併せて輝く文化芸術の祭典」と題して文芸、絵画など展示の部門も開催し、期間中に延べ1万3,000人の方に見に来ていただきました。

そして、「舞鶴市文化協会の歌」を発表。これは、文化交流潮風の会の安久菊枝さんが作詞、ニューサウンズオーケストラの東出裕成さんが作曲され、海やれんが、城下町など、舞鶴の良さが詰まった歌となっています。今後、イベントなどで歌い継いでいこうと思います。今までに、バッジや協会の旗も作成しており、今回、歌が完成したことにより、会員の皆さんの活動に一層の励みがあります。

協会の設立は、昭和20年8月15日の終戦から4か月後の12月8日。当時は生活で精一杯の時代。その中で先人の方たちは文化は大切だという思いで協会を立ち上げられました。そして今や大臣や知事、市長から表彰をいた

だくほど歴史のある協会になりました。これからの歴史を大事にして盛り上げていきたいと思っています。

詩吟の師範として

詩吟を始めたのは26歳の頃。もともと声を出すのが好きで、20歳の頃にコーラスや演劇を始めたのがきっかけで、最終的に詩吟に落ち着きました。

詩吟とは、漢詩に抑揚や吟符を付けて吟じます。和歌や俳句も詠うので結構楽しいものです。段位には初段から始まり、初伝、中伝、奥伝、皆伝、総伝があります。いずれも試験があり、漢詩を覚えて審査員の前で吟じ、姿勢や動作、吟法などのルールをチェックされます。今は、総伝の段位を受け、師範として山内岳心という号で活動しています。どんな習い事でもそうですが、積み上げが大切です。

文化活動は気持ちを持ち上げたり、ストレスを和らげてくれます。そして、いろんなジャンルがあり、活動を通じ、人と人とのつながりが生まれます。別の団体が一緒に発表したりとみんなで楽しんでくれるのが協会の良さです。見に来てくれた人にも一緒に楽しんでもらいたいと思っています。

今は協会の活動に全力投球。私自身、いろんな人と会って話すのが好きなので、さまざまな団体と連携し、協会の持つ力を使って舞鶴を盛り上げたいと思います。

文化協会は縁の下の力持ち。皆さんが活動しやすく、笑顔で楽しい人生が送れるように今後も頑張ります。

本州の山口県から沖縄県の山林に生える常緑小高木で、各地で庭木や生け垣に植栽され園芸種も多い。葉は、互生し長い楕円形で革質。表面は濃緑色で光沢がありツバキに比べて小さい。晩秋から冬にかけ枝先に径5~8センチくらいの白色の花をつける。園芸種は白色のほか紅・ピンク・多弁など変化に富む。名前の由来は、ツバキの漢名「山茶花」の転訛。ツバキとの違いは、ツバキが萼から花ごと落ちるが、サザンカは雄しべと花弁がバラバラに落ちる。



サザンカ (ツバキ科)

見ごろ 10~1月頃

【協力】 瓜生勝朗 市文化財保護委員(植物分野)

まいづる花図鑑

vol. 113

